

地域の養殖環境に合わせたのり養殖品種の開発について

師崎漁業協同組合

吉川 光春

1 地域の概要について

我々が住む師崎地区は、知多半島の最先端に位置しており、多くの観光客が訪れる風光明媚な場所である。また、当地は漁船漁業が非常に盛んなうえ、春から秋にかけては遠方からも釣客が数多く訪れ、大変なにぎわいを見せている。さらに伊勢湾をはさんで三重県の鳥羽、対岸の渥美へは、フェリーで結ばれており、海上交通の要所となっている（図1）。

2 漁業の概要について

我々が所属する師崎漁協は組合員数371名、漁船隻数471隻、年間の水揚量は約9,200トン、水揚金額は約24億2千万円となっている。主な漁業種類はしらす機船船びき網漁業、いわし・いかなご船びき網漁業、一本釣り漁業、刺し網漁業、のり養殖業、わかめ養殖業などとなっている（表1）。

のり養殖業者の経営体数は20経営体で、養殖柵数は浮き流しのみの漁場で約5,000柵となっている。平成9年度9回汐までの、のり生産については組合全体の生産枚数が2,488万300枚、金額では約2億5600万円、平均単価は1,031円であった（表2）。

図2は師崎漁協の中でのり養殖業の占める割合を示したものである。のり養殖業は、しらす機船船びき網漁業、いわし・いかなご船びき網漁業、一本釣り漁業の次に位置しており、全水揚げ金額のうち10.4%を占めている。

3 課題選定の理由

図3は今年度の師崎地区での栄養塩の測定結果をまとめたものである。横軸は測定日を示し、縦軸には三体窒素合計の栄養塩量をとっている。この図からもわかるように、私たちの漁場の特徴として、育苗期である10月上旬から11月中旬にかけて栄養塩量が50ガンマー以下となる時期が頻繁にある。平成9年度漁期は、降雨が頻繁にあったことも影響して、100ガンマーから200ガンマー前後の高い数値で安定していた。しかし、2月上旬には、珪藻が増加し、栄養塩は100ガンマー前後まで低下した。以上のように、私たちの漁場は栄養塩の変動が激しいため、のりの製品は艶がなく、ガサツキやすく、穴の多いものが多く生産される傾向にある。

図4は師崎地区での平均的な養殖スケジュールを表にまとめたものである。

育苗時期は例年9月27日から開始される。その後、1ヶ月程度でのり芽が数センチになった時点で育苗を終え、冷凍入庫を行う。秋芽生産期は10月下旬から、1月上旬まで続く。冷凍網生産期は、正月明けから始まり、3月上旬から下旬まで続けられる。

特に私たちの地区で問題となっているのは、この図にも示されているとおり、秋口と

このことから、ユノウラで、あかぐされ病が急速に進行している時期に、MSは逆に終息傾向となっていることから、ユノウラよりもあかぐされに対する抵抗性があることが示唆された。

次に、硬さを評価する方法について説明する。

図6は硬さの測定装置を模式的に示したものである。装置は図のようになっており、ハカリの上に台を設置する。この台上に適当な大きさに切ったのり葉体の両端をクリップでとめて固定する。こののり葉体を上から針で刺すと、そのときの押した力がハカリの重さとなって表示される。この数値を硬さの指標とした。つまり、柔らかければのりにすぐ穴があき、小さい値が示されるが、固いのりの場合は大きな値が示されることとなる。

測定結果を図7に示す。

この図は横軸に摘採回数を取り、縦軸には、針を押し力をグラム数で示している。

まず、対照としたユノウラは、初回摘採時に1. 28 g、2回目は1. 78 g、3回目は2. 74 g、4回目には3. 18 gとなり、摘採回数を重ねるごとに硬くなっていることが示された。

次に、MSは初回摘採時は1. 41 g、2回目は1. 46 g、3回目は2. 36 g、4回目は2. 45 g、6回目は2. 30 gと3回目以降については、ユノウラと比べて、硬くなっていく速度が遅いことが分かった。

このことから、MSはユノウラに比べて柔らかく、また、摘採回数が進んでも硬くならないことが示された。

5 波及効果

MSは以前から摘採を重ねても柔らかく、病症害にも強いと言われていたが、今回の試験でそれら有効性が確認でき、師崎地区の漁場環境に適合した非常に優秀な品種であると思われる。今後、当地区ののり養殖業者が当品種を生産に使用することにより、のりの生産性の向上が期待できると思われる。

6 今後の課題

MSは優秀な品種であると思われるが、まだ新しい品種でその特性等は不明な部分が多い。よってMSの特性を十分に解明し、網管理方法等の検討を加え、長期間の摘採を行えるようにしたい。



図1 師崎漁協の位置

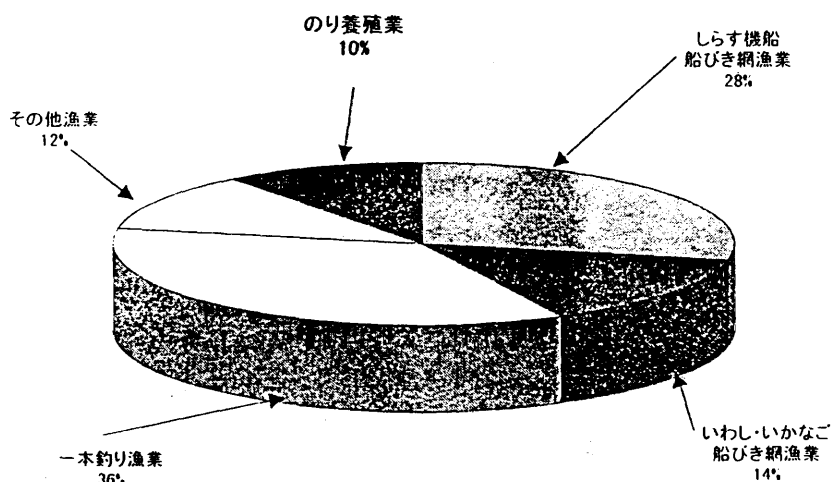
表1 師崎漁協の概要(平成9年)

組合員数	371名
漁船隻数	471隻
水揚げ数量	約9,200トン
水揚げ金額	約24億2千万円
主な漁業種類	しらす網漁業 いわし・いかなご船びき網漁業 一本釣り漁業 刺し網漁業 のり養殖養殖業 わかめ養殖業

表2 師崎漁協のり養殖の概要

経営体数	20経営体
柵数	約5,000柵
生産枚数	2,488万300枚
生産金額	2億5,600万円
平均単価	1,031円

図2 師崎漁協に占めるのり養殖業の位置



漁業種別水揚げ金額の割合(%)

図3 師崎地区の栄養塩の経過

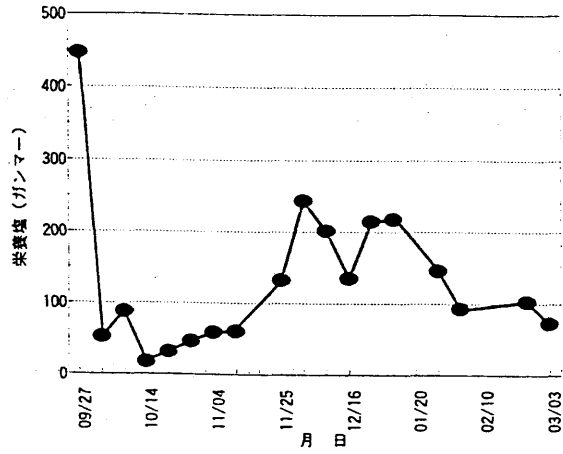


図4 師崎地区における養殖スケジュール

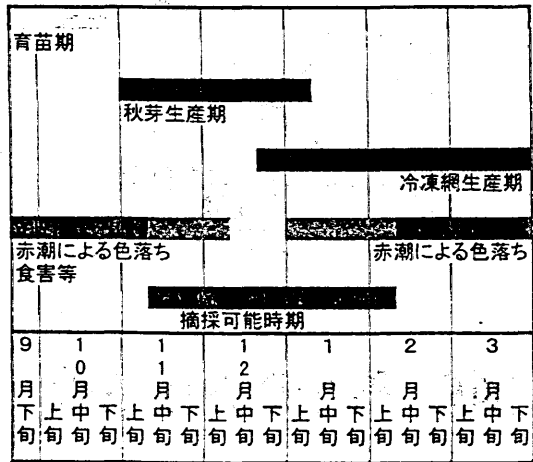


図5 のり網1枚当たりの生産枚数

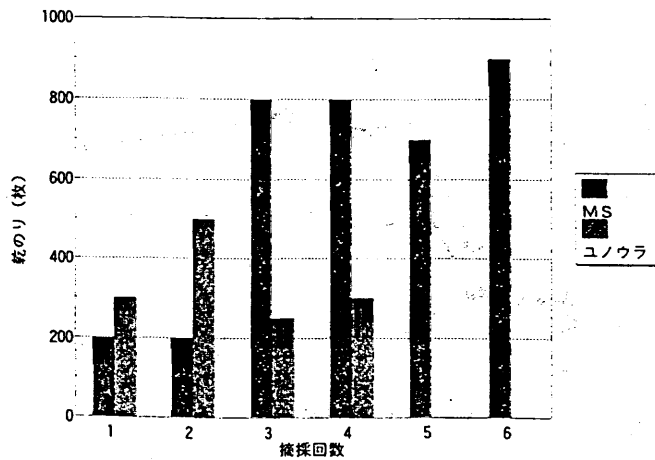


表3 あかぐされ病罹病度調査結果

摘採回数		1回	2回	3回	4回	5回	6回
M	S	-	±	+	+	-	++
ユノウラ		-	±	+++	++		

あかぐされグレード: -なし ±少しある +やや多い ++多い +++非常に多い

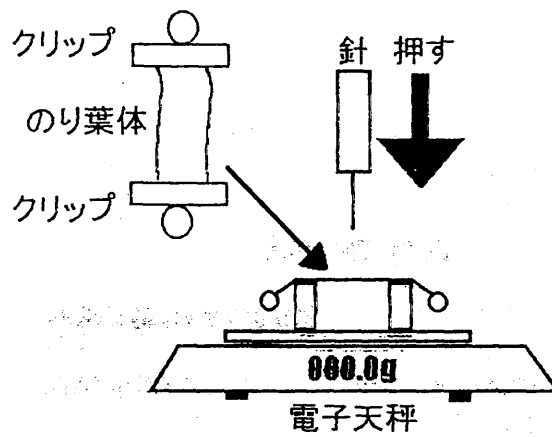


図6 硬さの測定装置

